

サケの仲間たち（種類）

サケ・マス類は、分類学的には硬骨魚類のサケ目、サケ亜目のサケ科に属します。サケ科はシロザケ（サケ）に代表されるサケ属、イワナ属、イトウ属、タイセイヨウサケ属の4つのグループに分けられます。サケ属以外の3属は、釣りや養殖の対象として親しまれています。



シロザケ（サケ）

Oncorhynchus keta



日本からカムチャッカ半島、アリューシャン諸島、北太平洋にかけて広く分布。2～6年で親になって母川（生まれた川）に帰ってきます。産卵は9月～翌年1月で、稚魚は翌春3～5月に海にくだります。

サクラマス

Oncorhynchus masou



東アジアに分布。陸封されたものはヤマメと呼ばれます。川に残るものは雄が多く、雌のほとんどが海にくだります。春から夏にかけて川にのぼり、ふ化後1～2年は川で生活し、近海で1年ほど生活した後に母川に帰ってきます。

カラフトマス

Oncorhynchus gorbuscha



広く北太平洋に分布。サケの仲間の中でも最も小型で寿命は2年。春にふ化し、卵黄を吸収するとただちに海にくだり、16～18ヶ月後に成熟して母川に帰ってきます。

マスノスケ

Oncorhynchus tshawytscha



主に北アメリカとカムチャッカ半島に分布。マスノスケはマスの大将という意味で、アメリカではキング・サーモンと呼ばれています。体重は5.5～18キロにもなります。

ギンザケ

Oncorhynchus kisutch



北太平洋に広く分布。日本の河川には、ほとんどそじしない。ふ化後1～2年川で生活した後、海にくだり、1年たらずで母川に帰ってきます。宮城県では養殖が盛んに行われています。

ベニザケ

Oncorhynchus nerka



カナダ、アラスカ、カムチャッカ半島などに分布。日本では、陸封型（ヒメマスと呼ばれている）が十和田湖、中禅寺湖などに移殖されています。

宮城県沿岸で漁獲されるサケの仲間は、シロザケ（サケ）、サクラマス、カラフトマス、マスノスケの4種類です。

サケは主に秋に漁獲されますが、春に捕れるものは「ときしらす」、「おおめます」と呼ばれます。

なお、サケ以外の3種類は春先に本県沿岸で漁獲されます。

宮城県内の河川で自然繁殖しているのは、サケとサクラマス（降海しないものがヤマメ）の2種類ですが、大規模に人工ふ化放流事業が行われているのはサケだけです。

カラフトマスやマスノスケは、主に他の国の河川で生まれたものが、我が国の沿岸まで回遊してきた群れです。